

第15回伊那地域定住自立圏共生ビジョン協議会 会議録

開催日	令和5年8月24日(木)			
開催時間	開 会	午前9時30分	閉 会	午前10時30分
開催場所	伊那市役所 多目的ホール			
委員出席者	伊那市区長会 箕輪町区長会 箕輪町商工会 上伊那森林組合 伊那バス(株) ジェイアールバス関東(株)伊那支店 長野県宅地建物取引業協会南信支部 伊那市観光協会 NPO 法人子ども・若者サポートはみんぐ 伊那市保育園保護者連合会 上伊那PTA連合会 信州大学 公募	原 安司 中村 和年 白鳥 公夫 唐木 信彦 福澤 信義 西津 芳則(代理:佐藤 睦希) 大村 裕一 伊藤 隆博 戸枝 智子 百瀬 かをり 伊野 麻衣子 鈴木 純 野本 瑠美		
欠席者	南箕輪村区長会 伊那中央行政組合 伊那市社会福祉協議会 伊那商工会議所 南箕輪村商工会 上伊那農業協同組合 (有)白川タクシー	栗原 敦司 伊藤 美千代 矢澤 秀樹 海野 千里 小松 豊 小林 秀明 白川 光朗		
委員以外の出席者	アドバイザー(上伊那地域振興局企画振興課)	鳥羽 秀行(代理:飯島 恵子)		
出席した事務局職員	伊那市企画部長 伊那市企画部地域創造課長 箕輪町企画振興課長 南箕輪村地域づくり推進課長 伊那市商工振興部産業立地推進課長 伊那市保健福祉部子育て支援課長 伊那市企画部企画政策課長 伊那市総務部秘書広報課長 伊那市総務部総務課長 伊那市企画部企画政策課長補佐企画政策係長 伊那市福祉部福祉相談課相談支援係 伊那市企画部地域創造課移住定住促進係長 伊那市企画部地域創造課移住定住促進係 伊那市企画部地域創造課移住定住促進係 南箕輪村地域づくり推進課企画係長	飯島 智 田中 久 唐澤 勝浩 高橋 里江 平澤 浩 北原 静香 織井 邦明 柴 千恵美(代理:池上 政史) 北原 節子(代理:有賀 巧) 福澤 誠 宮下 久美子 唐澤 雅也 田尻 勇木 青樹 万由子 宮下 裕司		

議 事	(1) 定住自立圏共生ビジョン令和4年度の取組及び令和5年度の実施計画について (2) その他
配布資料	資料1 第2期伊那地域定住自立圏共生ビジョン令和4年度実績及び令和5年実施計画 別紙1 令和4年度 産業振興事業実績 別紙2-1 令和4年度 福祉部会の状況について 別紙2-2 令和4年度 「病児・病後児保育施設」「子育て支援センター」利用実績 別紙3-1 令和4年度 地域公共交通部会の状況について 別紙3-2 令和4年度 地域公共交通部会関係事業（伊那本線等）利用実績 別紙4 令和4年度 情報インフラ部会の状況について 別紙5-1 令和4年度 移住定住・地域振興部会の状況について 別紙5-2 令和4年度 移住・定住施策の実績、空き家バンク等の実績 別紙6 令和4年度 合同研修実績 その他 第2期伊那地域定住自立圏共生ビジョン【第2版】

1 開会

2 委嘱書交付

3 自己紹介（各委員、アドバイザー、事務局）

4 副市長あいさつ

伊那地域定住自立圏については、経済や生活の結びつきが強い近隣自治体間との連携を深めながら、将来にわたって安心して暮らせる 魅力的な地域づくりに取り組むため、平成28年に形成に関する協定の締結を経て、圏域の将来像や推進する具体的な取組を定めた共生ビジョンを策定し、今年で7年目を迎える。

これまで、第2期共生ビジョンに基づき、3市町村が相互に役割分担と連携・協力を図りながら、「伊那本線」の運行や「子育て拠点施設の相互利用」、「空き家バンク」の充実、「ぐるっとタクシー」の運行など、政策分野ごとに各種事業に取り組んできた。3市町村の住民がこの圏域で安心して暮らし続けるための施策を展開している。

今年度が第2期の共生ビジョンの3年目にあたる。さらに取組に関する基本目標や業績評価指標（KPI）の達成に向け、より実効性のある施策や事業に取り組んでいく必要がある。

委員の皆様には、伊那地域定住自立圏構想のさらなる進展に向け、それぞれのお立場で格別のご理解とご協力をお願いしたい。

5 正副会長の選出

以下のとおり承認。

会長：伊那市区長会 原 安司 氏

副会長：箕輪町区長会 中村 和年 氏、南箕輪村区長会 栗原 敦司 氏

6 会長、副会長あいさつ

(会長：原 安司 氏)

定住自立圏共生ビジョン協議会は今年度初めての開催となる。

本日は、共生ビジョン令和4年度実績報告や、令和5年度の実施計画の報告を予定している。

3市町村の住民の皆さんが安心安全な、住みやすい地域となるよう活発な議論をお願いするとともに、円滑な議事の進行にご協力をお願いしたい。

(副会長：中村 和年 氏)

微力ではあるが、力を尽くしていきたい。

7 会議事項（進行：原会長）

(1) 定住自立圏共生ビジョン令和4年度取組及び令和5年度の実施計画について

会 長： 事務局から説明をお願いします。

事務局： (資料1及び別紙1～別紙6により説明)

会 長： 説明内容について、御意見、御質問等はあるか。

委 員： 空き家バンクの活用について、移住者数が3市町村で着実に成果が出ている。取り組みの成果や、後押しとしてコロナで地方へという状況が反映されたと考える。

空き家バンクの利用者のうち、農業に携わりたいという意見や家庭菜園なども含めた小規模な農業をやりたいという意見等の事例があれば紹介いただきたい。

事務局： 空き家バンク利用者や移住者の中で家庭菜園をやりたいという声は多くある。

規模感等は掴めていないが、近年、伊那市の例では農家の方で後継者がおらず、探している中、農業に興味のある移住希望者がおり、空き家を紹介しながら農家とのマッチングをするという例も出てきている。今後、このような農業、農地の活用も増えてくると考える。

委 員： 自身の調査の中で、農業の経験がない方が支障なく、かつ意欲を持って取り組むことができる面積は2a程度とのデータが出ている。2a程度であれば十分に作業量があり、さらにある程度の収入が見込める。今後、このようなデータを活用し、様々な展開があることを願う。

会 長： 空き家バンク利用者の農業従事希望人数等もできれば把握しながら、推進を図ってもらいたい。

委 員： 伊那市が教育移住を推進している。伊那小学校を中心に、多くの県外移住希望者が見学に来ている。学校の見学後、いなまち Base やその他の子どもの居場所を見学する方が増えている。また、教育移住を考えている方の中で、不登校や発達障害を持っている家族も多いと実感している。そのような家族が移住をした後、学校には通っていても、その後に子どもたちが行く場所がなく、児童館がなかったり、学童クラブも非常に込み合っていて大人数の中では過ごすことができないなどの意見を聞く。

教育移住を推進する上では、現状の取組だけでは子育て支援センターや病児病後児保育の連携はできていても、子どもの居場所づくり等の小中高校生の子の受け皿が不足

している状況があるため、課題となることが予測される。ぜひ検討いただきたい。

事務局： 義務教育である中学以降の子の居場所については、まだ手を付けられていないところ
と承知している。高校となると各市町村だけの区切りではないと考えるため、圏域の
中で研究を進めていきたい。

委員： ぐるっとタクシーや伊那本線について、利用できる方からは便利だという声がある。
一方で、ぐるっとタクシーについては、予約が取れない、車両数が少ないのではない
かという声もあり、車両数を増やすことも効果的ではないかと考える。
また、利用される方の利便性向上を図ることも必要である。

事務局： 伊那本線については、バスの本数やエリア、利用時間等、様々な要因もある中、コロ
ナ禍による外出者の減少もあったかと分析している。

いずれにしても、利用者が乗りやすい公共交通として、調査しながらより最適な運行
に努めていきたい。

伊那市に限ったことと言えば、ぐるっとタクシーやデジタルタクシー等のバス以外の
公共交通が充実してきたこともあり、バスそのものの乗車に影響しているところもあ
ると考える。全体として、交通弱者の皆さまが利用しやすい公共交通の運営に努めて
いきたい。

会長： アドバイザーから助言をお願いする。

アドバイザー： 令和4年度の実績については、コロナ禍の影響もある中で成果の出にくい取り
組みもあるが、その中でも、ぐるっとタクシーやモバイルクリニック、移住定
住の取組等、様々な工夫をしながら取り組むことで、成果が出ているものも多
く見受けられた。

令和4年度を取組や見えてきた課題等から、令和5年度の計画についても、よ
り目標達成できるような具体的な計画の改善案なども出てきている。このよう
な取り組みを皆さまと共に検討、支援させていただきたい。

何よりも3市町村の取組により、暮らしやすい地域となることで、今いる皆さ
まが地域に定着する、あるいは首都圏に出たお子さまや首都圏にいる方々から
見ても魅力的な地域になることで、この地域がより元気に、活力ある地域にな
ると考えているため、ともに取り組みを進めていきたい。

空き家バンク等における農業未経験の方の受け入れや、子どもの居場所に関す
る意見等については、地域振興局や県としても承り、今後何をしていくのが良
いかというところで参考とさせていただきたい。

8 その他

特になし。

9 閉会